

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-30C	16-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>Epidemiological characteristics of a Spanish cohort of patients diagnosed with squamous cell carcinoma of head and neck: distribution of risk factors by tumor location.</p> <p>頭頸部扁平上皮癌と診断された患者のスペインにおける疫学研究：腫瘍の部位によるリスク要因の分布</p>		
<b>執筆者</b>		
Seijas-Tamayo R, Fernández-Mateos J, Adansa Klain JC, Mesía R, Pastor Borgoñón M, Pérez-Ruiz E, et.al.		
<b>掲載誌</b>		
Clin Transl Oncol. 2016 Nov;18(11):1114-1122.DOI: 10.1007/s12094-016-1493-1		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
頭頸部癌、扁平上皮癌、疫学的特徴、スペイン、危険因子		27112939
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
頭頸部癌は、頸部顔面領域に位置する多数の腫瘍を含む高度に異種の疾患である。本研究は、スペイン人集団における頭頸部扁平上皮癌患者の特性と、腫瘍の部位ごとのリスク要因の分布を決定することを目的とした。		
<b>方法：</b>		
スペイン頭頸部癌協同組合に参加した 19 の病院で募集された 459 人の患者（口腔がん 75 人、咽頭/喉頭咽頭 167 人、喉頭がん 217 人）について、2012 年から 2014 年の 3 年間追跡した。腫瘍の特徴はカルテから情報収集し、生活習慣については自記式アンケート調査を行った。解析には多項ロジスティック回帰を用いて、腫瘍の位置に関連するリスク要因について検討した。		
<b>結果：</b>		
患者の多くは男性（88.4%）、喫煙者（95%）、酒類（76.5%）であった。男性と比較して女性では喉頭がんのオッズ比は 3.58 倍、咽頭がんは 1.81 倍、口腔がんは 4.33 倍であった。アルコール摂取量では、1 週間あたり 10-140 g の摂取で喉頭がんのオッズ比は 2.53 倍、141-280 g の摂取で 2.47 倍、280 g 以上では 3.20 倍であった。また喫煙では年間 21-40 パックの者でオッズ比 0.46 倍、41-70 パックで 0.43 倍、71 パック以上で 0.43 倍であった。その他、咽頭/喉頭咽頭は喫煙との関連は低いものの、農村地域およびアルコール消費量と関連がみられた。		
<b>結論：</b>		
頭頸部癌の分布は性差があり、口腔および咽頭腫瘍の比率が男性よりも女性が高くなっていた。また、咽頭/下咽頭癌は、喉頭腫瘍よりも喫煙との関連性は低い、農村地域およびアルコール消費とより強く関連していることが示された。		